

## 序

本書は平城宮跡から出土した陶硯を集成した『平城京陶硯集成 I - 平城宮跡 -』につづき、平城京域および南都の諸寺院より出土した陶硯資料を集めたものである。これにより平城宮、平城京域、南都の諸寺院の資料が出揃い、わが国における古代の陶硯の様相を知るうえで、一級の考古資料を提示することができた。

ここに集録した558点の資料と、『陶硯集成 I』を合わせると、1,000点以上にのぼる。これらは奈良文化財研究所の約50年に及ぶ平城宮、京、寺院の発掘調査の積み重ねによって、蓄積してきたものである。

律令国家を支えた文書行政の普及を物語る陶硯の出土は、全国の古代遺跡から確認されているが、言うまでもなく都が置かれた平城京からの出土数が群を抜いて多く、全国の出土数の2割程度にも相当する。

資料のなかには報告書の刊行に先立って報告したものも含まれるが、これは古代史研究における陶硯のもつ資料的価値をかんがみた結果である。本書を『陶硯集成 I』とあわせ、古代史の総合的研究に大いに御活用いただければ幸いである。

2007年3月

独立行政法人 文化財研究所  
奈良文化財研究所長

田辺 征夫